

令和6年度第4回滋賀県総合教育会議

「幼児期からの運動やスポーツに対する愛好的 態度の育成について」

黒澤寛己

びわこ成蹊スポーツ大学

自己紹介

黒澤 寛己(くろさわ ひろき)

1968年 京都市生まれ

1992年 大学卒業後、
京都市立高等学校教諭を経て

2016年4月、びわこ成蹊スポーツ大学勤務

○同志社大学大学院総合政策科学研究科
博士後期課程修了

○兵庫教育大学大学院学校教育研究科教育
実践高度化専攻

「ライフスキル教育」(昭和堂)、
「初めての柔道指導」(竹田騰写堂)
「スポーツマンシップ論」(晃洋書房)

○京都府高等学校体育連盟
普及委員・調査研究部員
柔道専門部委員

○1997年 京都インターハイ
大会役員

○国民体育大会
京都府女子柔道競技 コーチ

○講道館柔道六段

現在

○滋賀県部活動地域移行アドバイザー

○大津市・彦根市・多賀町部活動地域移行
検討協議会委員

スポーツ・部活動指導歴

京都市立西京商業高校(12年)

○女子硬式テニス ○柔道部

○珠算部 ○軽音楽部

京都市立伏見工業高校定時制(4年)

○柔道部

京都市立塔南高等学校(8年)

○男子バレーボール部 ○弓道部 ○陸上競技部

○書道部

びわこ成蹊スポーツ大学

○ハンドボール部(部長)

滋賀県の子どもの体力について

① 体力・運動能力調査の結果（令和6年度）

〈体力合計点の状況〉

- ・ 前年度に比べて、中学校の男女は上昇したが、小学校の男女は低下した。
- ・ 中学校男子は、本年度も全国平均を上回った。

出典 滋賀県教育委員会保健体育課資料

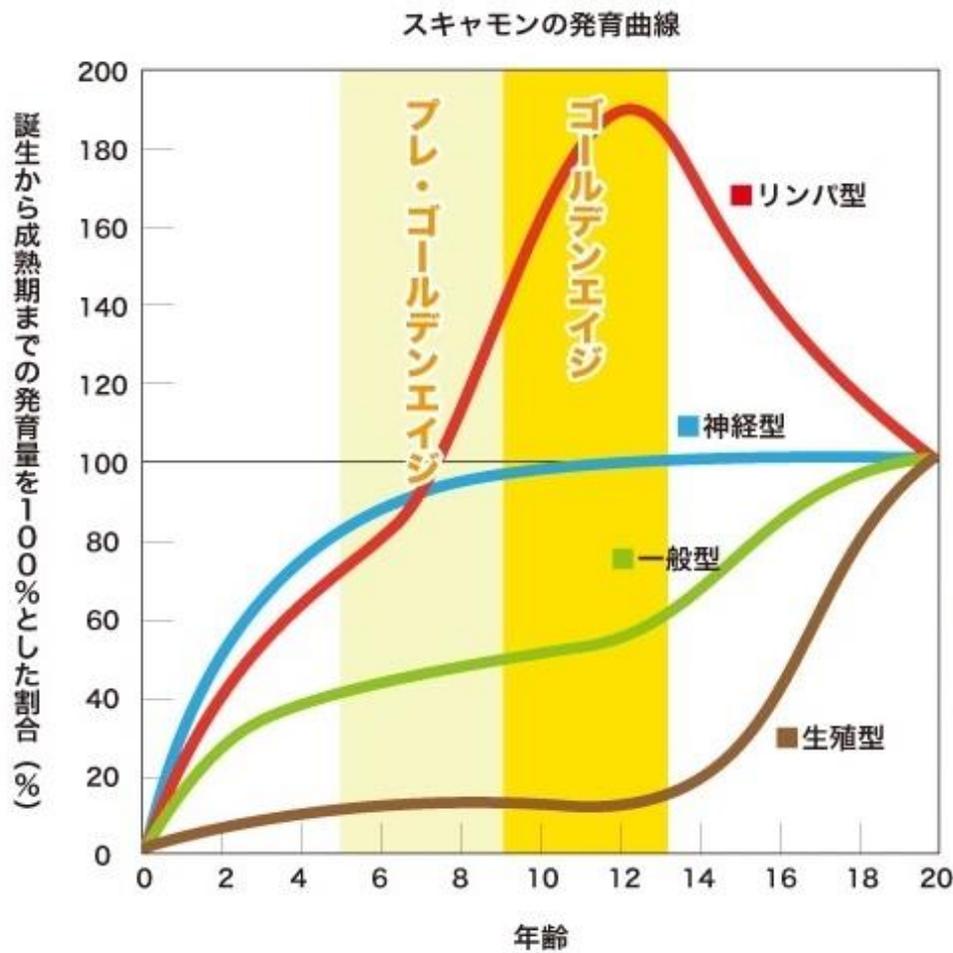
② 運動習慣等調査の結果

- ・ スクリーンタイムが4時間以上の割合は、令和5年度に比べて、小・中学校ともにやや増加した。
- ・ 「体育が楽しい」と答えた児童生徒の割合は、令和5年度に比べて、小・中学校ともに増加した。

出典 滋賀県教育委員会保健体育課資料

子どもの体力 スキャモンの発育曲線

(学研2021)



一般型 = 身長・体重
リンパ型 = 免疫(リンパ組織)
神経型 = 脳・脊髄・感覚器
生殖型 = 生殖器

プレゴールデンエイジ(3~8歳)
、ゴールデンエイジ(9~12歳)
に適切な運動・スポーツを体験
することが重要!

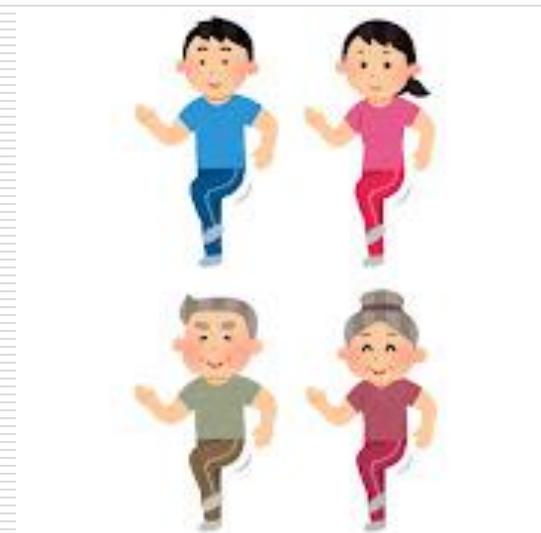
粘り強さ、我慢強さ、力強さ
やる気、集中力、免疫力の向上
など

Uplifting Minds Project

アシックスの大規模調査研究(公式HP)

世界16カ国、37,000人に調査した結果、運動がメンタルヘルスに及ぼす影響が明らかになった。

10項目の認知的および感情的特性
冷静さ、しなやかさ、ポジティブさ、
充実感、リラックス、自信、鋭敏さ、
穏やかさ、集中度、エネルギッシュさ



福井県の事例

全国学力・学習調査より

○体力テストの結果(2024年度)

小5 男女とも1位

⇒小5女子15回連続、小5男子3年連続

中2 女子2位 男子5位

⇒中2女子3年連続

○全国学力調査

小6＝国語3位、算数2位

中3＝国語3位、数学1位

福井県の学校調査

志水宏吉(2014)

○授業中の児童生徒の集中力と規律・礼儀の正しさ。

・学力のバラつきが小さい(学校平準化計画)

○鍛える「教育文化」

・遠泳 ・無言清掃

・学校行事 ・体操

・縄跳び

⇒「業間体育」⇒「運動の日常化」

Uplifting Minds Project 必要な運動時間は？

15分9秒の運動で充分！



福井県内 小学校の取り組み

校舎内での縄跳び



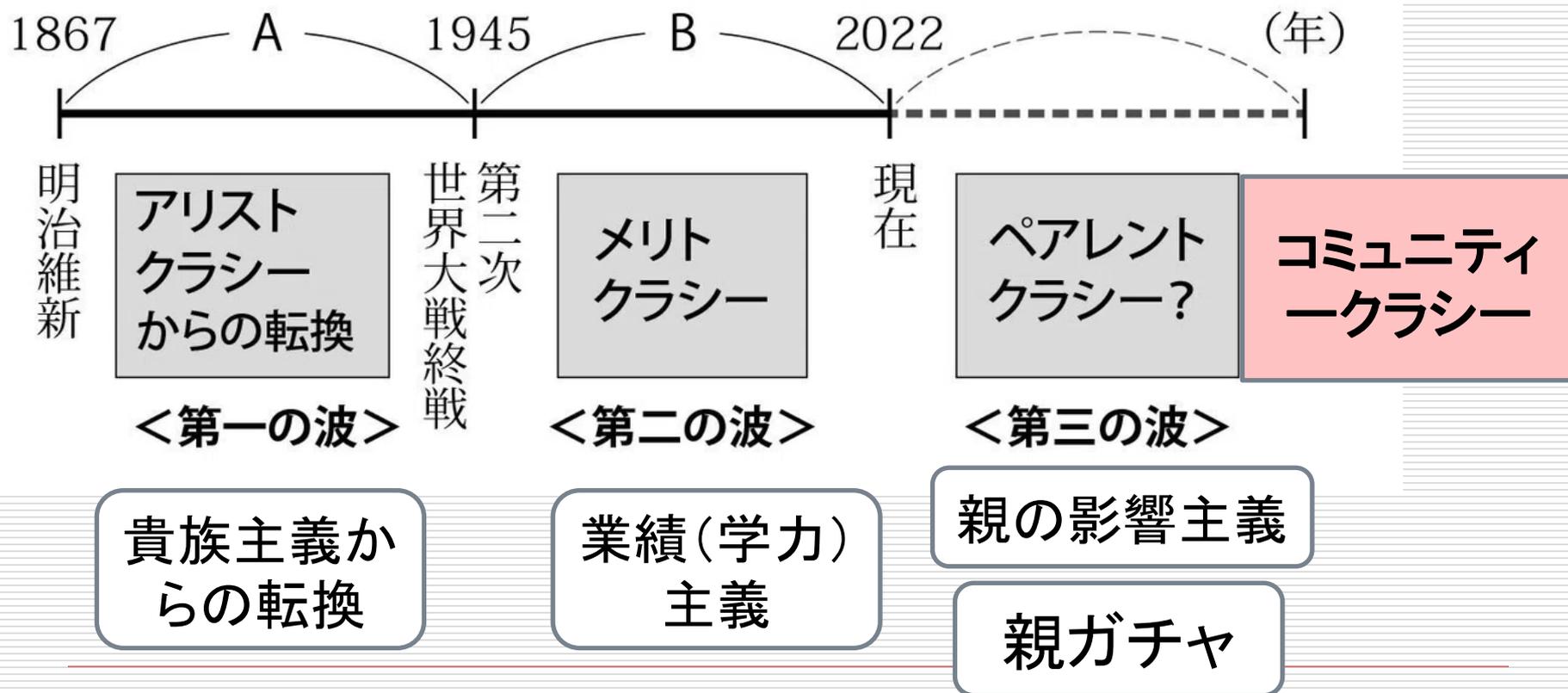
休み時間を活用した
運動



滋賀県の児童・生徒は幸せか？

教育社会学的 歴史の流れ

志水宏吉(2022)



運動スポーツ環境の整備

ナッジ理論(行動経済学)

ナッジ(nudge)とは、英語で「軽くつつく、そっと押す」「ある行動をそっと促す」という意味の言葉。

行動(経済学)科学に基づいた小さなきっかけで人々の意思決定に影響を与え、行動変容を促す手法・戦略。



生徒指導のポイント

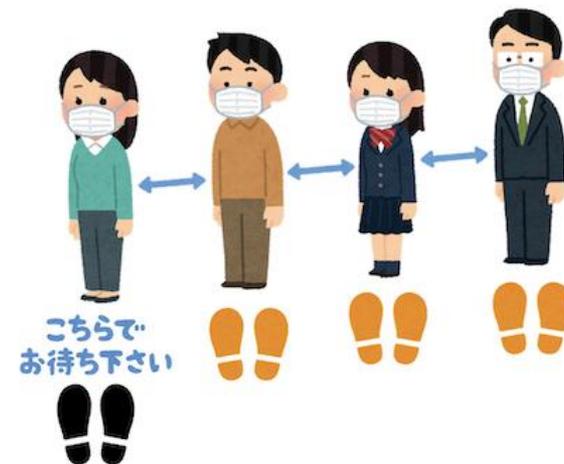
生徒はルールには反発するが、ムードには従う！

滋賀県におけるナッジ理論の活用例

びわこ大橋の「メロディロード」

時速60kmで走行すると
琵琶湖周航のメロディが聞こえる。

ナッジ理論の活用例



ナッジ理論の活用ポイント EASTの4ステップ



簡単

魅力的

みんながやっ
ている

タイミング

保育園・幼稚園の実践から

ヨコミネ式教育法公式HP

可能性を引き出すポイント

- ①子どもは競争したがる。
- ②子どもは真似をしたがる。
- ③子どもはちょっとだけ難しいことをしたがる。
- ④子どもは認められたがる。



滋賀県びわスポキッズプログラム

びわこ成蹊スポーツ大学の取組み



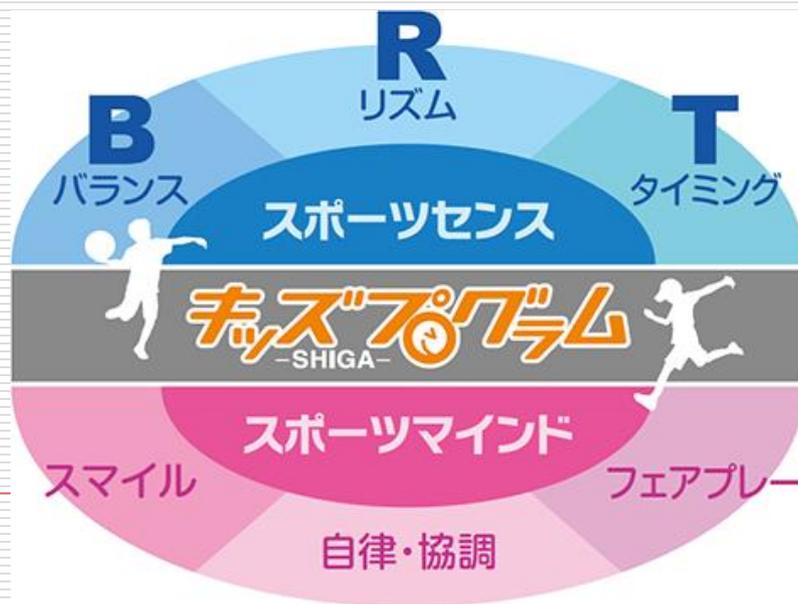
「びわスポキッズプログラム」

滋賀県の子どもの運動能力の向上とスポーツを好きになってもらうことを主旨に、2009年7月から開始されたプログラム。

- ①キッズリーダー研修(年間4回, 学生延べ305人),
- ②巡回指導(年間56回(幼稚園, 保育園),
(2292人の子どもが参加),
- ③びわスポキッズフェスティバル
(年間4回, 年間853人の子どもが参加)を展開している

びわスポキッズフェスティバル

びわスポキッズフェスティバルでは、年中(4歳)から小学3年(8歳)までの幼児、児童を対象に「バランス」、「リズム」、「タイミング」および子どもたちの心豊かな成長とスポーツマインドを育むために「スマイル」、「自律・協調」、「フェアプレー」をキーワードとしてプログラムを展開している。



スポーツの魅力とは...

ラグビー日本代表 故平尾誠二氏

できなかったことが、

できるようになる！

滋賀県の児童・生徒の幸せ...

滋賀県の子ども(児童・生徒)の幸せとは？

運動・スポーツ

好きなことを、

好きな人たちと一緒にできること。

主な引用参考文献

- ・志水宏吉他(2014)「福井県の学力・体力がトップクラスの秘密」
中央公論新社
- ・志水宏吉他(2022)「ペアレントクラシー「親格差時代」の衝撃」
朝日新聞出版
- ・滋賀県教育委員会(2024)「令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣
等調査の結果」
- ・大阪成蹊大学スポーツイノベーション研究所(2023)「スポーツと
ウェルネスのイノベーション」創文企画
- ・村田洋史他(2022)「ナッジ×ヘルスリテラシー ヘルスプロモーション
の新たな潮流」大修館書店
- ・株式会社アシックスホームページ
- ・ヨコミネ式教育法オフィシャルサイトホームページ

-
- ・帝京大学大学院公衆衛生学研究科(2022)「ナッジを応用した健康づくりガイドブック」